

## 保健センター・保健室看護師 諫山 優美

### 【アナフィラキシーとは？】

私たちの体には、もともと病気から身を守るための免疫機能があります。この免疫機能が過剰に反応して、自分自身を攻撃してしまうのがアレルギー反応です。「アナフィラキシー」は、強いアレルギー反応が皮膚・消化器・呼吸器・循環器・神経など全身に2つ以上、同時に現れている状態のことです。この強いアレルギー反応は短時間で起こります。

呼吸困難、血圧低下、意識障害などを伴うと「アナフィラキシーショック」となり、命が危険な状態に陥ってしまうことがあります。

### 《原因》

アレルギー反応を起こす原因となる物質が体内に入ると、起こることがあります。原因物質は様々で、食物、虫、医薬品などがあります。

予防接種を受けた後に、30分程度の体調確認を行うのは薬物による「アナフィラキシー」は、5分から30分の間で起きていることが多いからです。

### 《症状》

主な症状には、

皮膚が赤く腫れる。痒みがある。浮腫みがある。

蕁麻疹が出る。唇、舌、口の中の粘膜が腫れる。

息苦しい、ゼーゼー・ヒューヒューという呼吸音がある。

血圧が下がる。意識がもうろうとしている。意識がなくなる。

激しい腹痛が続く。吐き気や嘔吐を繰り返す。などがあります。



### 《アナフィラキシー？と思ったら》

「アナフィラキシー」は、上記のような症状が2つ以上、同時に現れている状態です。

例えばアレルギー反応を起こす原因となる物質が体内に入った後に、蕁麻疹が出て息苦しい状態は「アナフィラキシー」です。

エピペン（アナフィラキシー補助治療剤）を持っている場合は、速やかに注射し、すぐに救急車を呼ぶなどして、すみやかに医療機関を受診してください。

ご自身のエピペンを大学保健室にも置いておきたいと思われる方は、南山大学保健センター・保健室へご連絡ください。



### 《参考》

厚生労働省 アレルギーポータル <https://allergyportal.jp/knowledge/anaphylaxis/>